

山梨県総合計画審議会第6回基盤部会 会議録

1 日 時 平成25年1月9日(水) 午後3時30分～5時

2 場 所 ホテル談露館「山脈」

3 出席者

・ 委 員 (50音順、敬称略)

芦澤 敏久 天野 一 乙黒 泰樹 神山 祐仁 小池 とし子
佐々木 邦明 新藤 久和 田中 佑幸 内藤 悦次 堀内 光一郎
宮川 愛 向山 かず美

・ 県 側

知事政策局長 リニア交通局長 県土整備部長 企画県民部次長
(事務局：知事政策局) 政策参事 政策主幹

4 傍聴者等の数 1人

5 会議次第

- (1) 開会
- (2) 部会長あいさつ
- (3) 知事政策局長あいさつ
- (4) 議事
- (5) 閉会

6 会議に付した議題 (すべて公開)

- (1) 答申素案について
- (2) その他

7 議事の概要

(1) 議題(1)について資料により事務局から説明し、次のとおり意見交換を行った。

(委員)

P8の「少子・高齢化が進み、ハードを利用する人としらない人の二極化が進んでいるので、ソフトの施策も必要である。」のソフト、ハードの意味が分かりにくいので、分かりやすい表現にしてほしい。

(委員)

P9の「中央線上りの特急の始発で、使える時間帯に到着するものが1本だけでもあると、かなりよい。」の意味が分かりにくいので、分かりやすい表現にしてほしい。

(リニア交通局長)

都心への通勤に使えるものがあるとよいという意味であり、今後、分かりやすく記載していく。

(知事政策局長)

朝の8時台くらいに都心に到着するものがあるとよい、という意味である。

(委員)

外国人観光客は、尖閣諸島問題以降減少しているが、これについて記載しなくてよいのか。

(政策参事)

そのとおりであるので、修正していく。

(委員)

笹子トンネルの事故の関連で、県としてどういう対策をとっているかを記載しなくてよいのか。

(県土整備部長)

重点的に細かく点検していることを記載していく。施設の老朽化対策も重要な課題であり、これについても記載していく。

(委員)

笹子トンネルの天井板落下事故により県内の観光業に影響が出ているが、県内のトンネルでは、安全なのかを示してほしい。

(県土整備部長)

施設を整備した年代にはバラツキがあり、順次、補修をしている。いずれも、安全基準は全てクリアーしている。いつメンテナンスをしたのか、どういう補修をしたのかなどについて、データベース化したものを今後示していく必要がある。

(委員)

県外の人からは、山梨のトンネルは危険だと思われるので、安全だということを積極的にアピールする必要がある。

(委員)

これは、喫緊で最重要の課題である。表現方法について検討してほしい。

この部会でも、インフラの経年劣化について話題にあがったことがあるが、これを明確に示していくことが大事である。

(委員)

笹子トンネルをつくった当時は粗雑工事もあったかもしれないが、それ以降の工事では、

ほとんどそういうことはないはず。今は、東京の人は山梨は危ないという意識なので、来る人が少なくなった。最近では技術が進み、あの工法のところは他にはないので大丈夫だろう。

(県土整備部長)

最近では車の性能がよくなり排気ガスをあまり出さなくなったので、大きな換気施設は不要となり、天井板をつけなくなった。ただ、立地条件や規模によっては必要なところもあるので、点検技術を向上させるなどして安全性を高めていく努力を続けていく。

(委員)

県外の人に対して、山梨のトンネルは安全だということを積極的にアピールする必要がある。

(委員)

観光面だけでなく、産業面でも大変なダメージを受けているので、トンネルの天井板について、撤去すべきものとするが、県の方針はいかがか。

(県土整備部長)

愛宕トンネルには、半分だけ天井板がある。排気ガスによる周辺環境への影響を考慮して、トンネル中央で集めるために付けている。

今のところ、安全性は十分である。長期的なスパンを考えた場合、今後のとるべき対策はあるかもしれないが、全国的にもそこまではしていない。

(委員)

今後、信頼感の回復が図られるかどうかの問題である。

(県土整備部長)

「安全」は技術的に確保できるが、「安心」は心の部分であるので、理解が得られるよう努力していく。

(委員)

水、エネルギーについては、あまり問題になっていないので、今のところ何もないかもしれないが、かなり古いものもある。

P 26に「引き続き大胆な行政改革を続行」とあるが、効率化と安全・安心をどう両立するかが大事である。

(委員)

観光客が減少しているのは、山梨は危ないと思われているからではなく、渋滞回避が原因ではないか。

恵那山トンネルも同じ構造であり、山梨だけの問題ではない。

また、観光客の減少は、笹子トンネルの落下事故だけが原因ではなく、尖閣諸島問題も影響していると思うので、しっかり分析して理由を探してほしい。

(県土整備部長)

ネクスコ中日本によると、上信越道から関越道へ回ったり、東名高速を通ったりする広域回避も多いらしい。危ないと思うからなのか、渋滞回避のためなのか、原因ははっきり分からないが、安全性への不安を持つ人が多いという認識はある。

(委員)

もし、安全基準について山梨が劣っていると思われているなら、富士山の世界文化遺産登録もあるので、集中投資して、払拭してほしい

(県土整備部長)

同じ基準でやっており、山梨が殊更劣っているということはない。

(知事政策局長)

現在、観光面にどういう影響があるのかを調査しており、実態を踏まえたうえで対策を講じていきたい。

富士北麓でも観光客が減っている。県外からは、笹子トンネルがどこにあるか分からないということも理由かもしれないので、今後、情報発信をしていきたい。

(委員)

山梨のトンネルは他県のものより危ないというわけではないという事実も大事だが、国民がどう感じているかも大事であり、情報発信が重要である。

山梨は、日本のスイスを目指しているということだが、山梨のよさをアピールする力が弱く、他県の人には届いていないのではないかと。

観光地をアピールするだけでなく、滞在型を目指すのであれば、「暮らしやすさ日本一」であり、県民が幸せに暮らしていることや、仕事をしている人が明るい展望を持っていることを、もっと積極的にアピールする必要がある。

これまで、大きい道は不要であるという発言をしてきたが、震災で首都圏の機能が麻痺することもあるので、エネルギー、食糧の自給自足が大事であると感じており、道路を整備するにあたっては、納税者の理解が得られるように、安全面をアピールするなど工夫してはどうかと思う。

(知事政策局長)

確かに、情報発信が足りない面がある。

(委員)

経済の活性化につながるようなインフラ整備が重要であり、中小企業、サラリーマンにとって使い心地のよい環境をつくるという視点が必要である。

(県土整備部長)

社会基盤の整備には時間がかかり、途中で社会情勢が変わることもあるので、それに対応していかなくてはいけない。

また、整備を計画することにより、企業が入ってくることもあり、開発が誘導されるということもある。

(委員)

答申素案にある「○」には意味があるのか。独立しているものもあれば、関連しているものもあるが。

(委員)

「主な意見、提言」では「○」の意味があるが、「時代の潮流と本県の課題」では「○」は不要ではないか。

(知事政策局長)

読みにくいのであれば、整理していく。

(委員)

部会連絡会では、どういう形の答申案が出てくるのか。

「時代の潮流と本県の課題」は、第二期チャレンジ山梨行動計画で固まったものではないのか。

委員の発言内容をただ記載するだけでなく、まとめないとチグハグでよく分からない。部会連絡会では、これらをまとめたものが提出されるのか。

(知事政策局長)

それぞれの委員の意見を集約して方向性を出していくというのは難しい。計画策定後に社会経済情勢の変化があったので、それを踏まえて整理している。

(委員)

第二期チャレンジ山梨行動計画は、組織決定されたものではないのか。P 1 2からはそれが掲載されているのか。

(知事政策局長)

ほとんど変わっていないが、時点修正をしている。

(委員)

委員の意見が羅列されているものを知事に答申し、それを参考に知事が、優先順位を付けて施策を実施していくということなのか。

(知事政策局長)

財政状況等を考慮しながら、優先順位を付けて施策化していく。

(委員)

少子・高齢化対策が最重要課題である。人がいなくなったら、道路を整備しても意味がなくなる。

P 1 1に「東京在住の本県出身者120万人が、なぜ出て行ったのかを調査」とあるが、本当に調査していくのか。

P 9に「子どもや来県者が、リニアが走行しているところを見られるようなものがあるとよい」とあり、盆地を走る姿を見ることを県民も観光客も期待していると思うが、全部の区間で見えるわけではなく、土管の中を走っているように見えると聞く。

この施設について、多額の固定資産税を徴収すれば、山梨は潤うかもしれないが。

(リニア交通局長)

騒音、振動の面などを考慮すると、回りに人家があるところでは難しい。例えば、大きな川の上などではフードを外せるのではないかというのがJR東海の考えである。

景観保全や観光活性化のため、知事がJR東海の社長にフードの透明化を要請している。JR東海でも、新製品の開発を検討している。

(知事政策局長)

「東京在住の本県出身者120万人」というのは、東京の県人会員の人数で、この中には家族も含まれている。何人が山梨を出て行ったかということについては、別に調査をしている。

(委員)

よく、ふるさと納税の対象者などで、「120万人」という言葉を使う。

この人数が出て行ったというわけではなく、出身者を含めて県人会の関係者がこれだけいるということであり、おおらかな数字である。

(委員)

リニアの可視化についてだが、駅に停車する何キロ前から減速するのか。日本のアクリルの技術は世界一であり、水族館でも使われているが、せめて、減速する区間だけでも可視化できないのか。

(リニア交通局長)

山梨の駅には、5本に1本、1時間に1本しか停車せず、他のものは通過していくので難しい。そうは言っても、土管のようなものができる则と景観上もよくないので、引き続き要請していく。

(委員)

笹子トンネルについては、前回までの部会で心配していたことが起きてしまった。このことをどう織り込んでいくかは、基盤部会の存在に関わる大変大きな問題である。「安全日本一のやまなし」をプレゼンテーション、アピールしていくことが大事である。

(2) その他

事務局から今後の審議日程について説明し、了承を得た。

8 追加意見

部会后、提出された意見は次のとおり。

(委員)

P 1 1の「定住人口確保対策」の3つ目の○の項目を「東京在住の本県出身者などから、外から山梨県をどのように見ているのかを聞き取り調査し、定住対策などの参考にしたかどうか。」に修正してほしい。